



故貴族院議員嘉納治五郎勲章加授ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十三年五月十二日

内閣總理大臣公爵近衛文磨



内閣

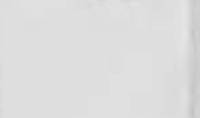
賞勳局由第一九〇號

内閣 奏 第一六号

昭和十三年五月十一日内閣書記官長



内閣書記官長



昭和十三年五月四日

昭和十三年五月四日 日裁可
昭和十三年五月四日 日裁可



昭和十三年五月四日 日裁可
昭和十三年五月四日 日裁可

内閣總理大臣及

賞勳局總裁



故貴族院議員正三位勳一等嘉納治五郎
ハ明治十五年八月學習院教師トシテ出
身以來諸官ヲ經テ高等師範學校
長ニ任セラレ又体育界、先覺者トシテ
學校衛生、普及、体位、向上等ニ努力
シ大正十一年二月貴族院議員ニ勅選セ
ラル、ヤ國政ノ樞機ニ參畫シテ其ノ職

責ラ完フセリ同人ハ明治十五年講道館ヲ創設シテ柔道界ヲ革新シ其ノ指導原理ヲ精神修養ニモ適用セシメ現ニ館員約八萬有段者五萬餘ヲ數ヘ海外ニモ普及スルニ至レリ又夙ニ武道教師ノ養成ニ意ヲ用ヒ昭和四年十二月体育運動審議會委員トシテ中等學校ニ於ケル課外運動タリシ柔道ヲ劍道ト共ニ正課タラシムルニ盡カシ同十一年之カ實施ヲ見ル

(木村 納)

ニ至レリ更ニ大正九年以來ハオリンピック
大會毎ニ其ノ委員トシテ參加シ就中
昭和十一年文部省ノ囑託トシテ第
十二回オリンピック大會東京招致ニ
關シ辛苦能ク折衝スルトコロアリ斯ク
如ク同人ハ國民体育ノ向上並ニ國際
親善ニ盡瘁シタル功績顯著ノ者ニ
候處本月四日死去セル趣ニ付此際
特ニ同日附テ以テ旭日大綬章ヲ加
授セラレ度此段允裁ヲ仰ク

内

閣



故正三位勳一等 嘉 納 治五郎

右ハ本月四日薨去ノ處別紙功績調書ノ通功績顯著ノ者ニ付此際勳章
加授ノ榮ヲ與ヘラルル様御詮議相成度右稟申ス

昭和十三年五月七日

文部大臣侯爵 木 戸 幸

厚生大臣侯爵 木 戸 幸

内閣總理大臣公爵 近 衛 文 麿 殿



文 部 省



故正三位勳一等 嘉納 治五郎

右ハ夙ニ教育家トシテ出身シ始メ學習院ニ於テ同院ノ官立以前ノ明治十五年八月以來八年有餘勤務シ教授並教頭ニ至リ又此ノ間宮内省御用掛タルコト六年明治二十四年四月文部省參事官ニ任ゼラレ次テ第五高等中學校長、第一高等中學校長等ニ歷任シ同二十六年九月高等師範學校長ニ任ゼラル、而シテ同人ノ高等師範學校長タリシハ前後三回ニシテ大正九年一月退官ニ至ルマデ在官通計二十三年餘克ク我國師範教育ノ基礎ヲ確立シ又同十一年二月貴族院議員ニ勅選セラレテ國政ニ參與シ殊ニ民間ニ在リテハ彼ノ講道館ヲ創立シテ柔道界ヲ革新シ斯界ノ最高權威者タルハ世人周知ノトコロトス、尙競技運

文部省

動界ノ先覺者トシテ多年其ノ振興ニ寄與シ第十二回オリンピック大會東京招致ニ關スル獻身的盡力ニ對シテハ一般國民ノ現ニ絶大ノ感謝ヲ捧グルトコロナリ、茲ニ大正九年一月前敘勳以後ヲ主トシテ同人功業ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ

一、オリンピック大會ニ關スル功績

近代オリンピック大會ハ明治二十八年創設セラレタルモノニシテ其ノ第四回大會迄ハ我國ヨリ參加スルニ至ラズ然ルニ明治四十五年第五回大會ニ於テ我國ニ對シ參加ヲ勸誘シ來レルヲ以テ文部省ハ政府代表トシテ同人ヲ派遣スルコトトナリシガ之ヨリ曩同人ハ右大會開催ノ趣旨ニ大ニ共鳴スル所アリ而シテ同人ガ日本代表國際オリンピック委員ニ推薦セララルヤ日本代表体育運動團體ノ創立ヲ圖リ遂ニ大日本体育協會ヲ創立シ自ラ會長トナリストツクホルムニ開催セラ

レタル第五回大會ニ初メテ日本ノ参加ヲ見タルモノナリ
爾後同人ハオリンピック大會ニ参加スルコト五回（大正九年以來四
回）又國際オリンピック委員會總會ニ出席スルコト七回（大正九年
以來）ニ及ビ就中昭和十一年ニハ文部省ヨリ第十二回オリンピック
大會東京招致ニ關スル事項ヲ囑託セラレ伯爵副島道正ト共ニ伯林ニ
出張シ苦辛折衝ノ結果遂ニソノ目的ヲ達成シ次テ昭和十三年カイロ
ニ於ケル國際オリンピック委員總會ニ出席シ第十二回オリンピック
大會東京開催解消論ノ沸騰セルニ對シ奮闘克ク之ヲ有利ニ指導シテ
同大會東京開催ヲ再確認セシメタルハ一ニ同人努力ノ賜物トシテ國
民ノ齊シク感激深謝措カザル所トス、斯ノ如ク同人ノオリンピック
大會關係事項ノ爲屢々海外ニ使シ、武士道精神ヲ以テ事ニ當リ我ガ
國民精神ノ宣揚ニ努力シ國際親善事業ニ盡瘁シタルハ永遠ニ特筆ス

文部省

ベキ功績ナリ

抑々オリンピック大會ノ本旨ハ國民体育ノ振興ヲ圖リ其ノ体位ヲ一
般的ニ向上セシメ且競技精神トシテ重ンズル公正純真不屈不撓ノ氣
象ヲ振作スルニ在リ又此ノ間ニ各國民相互ノ理解ヲ進ムルコトモ併
セテ所期セラレベシ、從テ之ヲ一部少數選手ノ單ナル實力競争トシ
テ勝敗ニ目的ヲ限リ一般体育トハ無關係ナル興味本位ノモノトナス
ガ如キハ大會ノ眞精神ヲ解セザルコト甚シキモノト謂ハザルベカラ
ズ、獨逸ノ如キハ其ノ國策ニ基キ近年學校其ノ他各種團體ニ於テ競
技運動甚ダ旺盛ニシテ之等各單位團體ノ中ニ生ジタル優秀者ヲ選抜
シ之ニ一定期間ノ特別訓練ヲ加ヘテ大會出場選手ヲ決定セラルル實
情ニ在リ、我國ニ於テモ第十二回オリンピック大會ニ對シテハ特ニ
廣ク全國ニ亘リ運動競技ヲ普及獎勵シ其ノ普及シタル各種團體ヨリ

選手ヲ募集シ更ニ全國的大會ニ於テ豫選シ之ニ特別訓練ヲ加ヘテ第
二次第三次ノ詮衡ヲ經タル者ヲ我國代表綜合團體タル大日本体育協會
ニ於テ技術人格共ニ我國代表タル資格ヲ有スル者ヲ選定スルモノナ
ルヲ以テオリンピツク開催ハ我國青少年ノ体位ヲ向上セシムル重大
要素トナルモノ~~ニ~~ニシテ本事業ハ正ニ体育ニ關スル國家的事業ト
解スベキモノナルヲ確認ス而シテ同人ハ斯カル國家的事業タルオリ
ンピツク大會ニ對シ日本代表ノオリンピツク委員ニシテ且オリンピ
ツク參加事業ヲ其ノ目的ノ一トスル團體タル大日本体育協會ニ於テ
ハ其ノ會長トナリ會長辭任後尙名譽會長トシテ長ク本事業ニ盡瘁セ
ルモノニシテ功績眞ニ甚大ナリト謂ハザルベカラズ

二、講道館柔道ノ本義ト其ノ現況

柔道ノ前身タル柔術ハ往時各種武技ノ中ニ在リテ必ズシモ高キ地位

文 部 省

ニ認メラレタルモノニアラズ逆手ヲ教ヘ型ヲ學ブノ單ナル技術本位
ノモノニシテ精神的要素極メテ稀薄ナルノミナラズ攻守ノ技トシテ
見ルモ非科學的非原理的ノモノナルニ過ギズ、然ルニ同人ノ創始セ
ル講道館柔道ハ精力善用自他共榮ヲ根本原理トシテ組立テ之ヲ体育
的武術的方面ニモ精神修養社會生活ノ上ニモ適用センコトヲ旨トシ
年ト共ニ其ノ教説ニ進歩改善ト精深化微妙化ヲ加ヘタルハ勿論ナル
モ其ノ本質ハ終始一貫不變ニシテ五十有餘年間ニ亘リ國民体育、士
氣作振、國民精神作興、日本の文化ノ復興及其ノ海外發揚等ニ資シ
タルトコロ誠ニ甚大ナルハ柔道界今日ノ盛運ニ徴シ何人モ直ニ肯定
シ得ル所ナリ即チ現ニ館員約八萬有段者五萬餘ヲ數ヘ然モ館員外ノ
柔道修業者ハ全國諸學校或ハ一般青壯年ヲ通ジテ數十萬ノ多キニ上
ルベク更ニ之ヲ數十年間ヲ通ジテ數フレバ蓋シ數百萬ニモ達スベシ

然モ昔ニ國內ニ如上ノ發達ヲ見タルノミナラズ今ヤ海外諸國世界各
地ニ廣ク普及シ其ノ數十九ヶ國數百人ヲ算スルニ至レリ、斯カル柔
道ノ發展ハ固ヨリ時代ノ進歩ニ因ルトコロ少カラザルベキモ然モ講
道館ガ熱烈ナル努力ヲ以テ終始其ノ中心トナリ根源トナリテ技術的
ニ精神的ニ將又^{理論}的ニ開拓指導ニ當レルニ基クヤ論無シ

三、學校體育ニ關スル功績

同人ノ我國學生生徒兒童ノ體育振興ニ關シ努力シタル功績ハ枚擧ニ
遑アラザルモ其ノ主ナルモノヲ擧グレバ昔テ高等師範學校長時代ニ
同校ニ修身體操科ヲ設ケ優良ナル武道教師ノ養成ニ盡シ又文部省ヨ
リ兵式体操振興ニ關スル調査委員ヲ命ゼラレテ善ク其ノ職ニ盡シタ
ルノ外大正十二年三月學校衛生調査會ニ於テ學校體育運動ノ指針作
成ノ計畫ニ際シ同調査會臨時委員仰付ラレ既ニ調査完了セル競技指

文部省

針、水泳指針ノ作成ニ寄與シ次デ目下審議中ニ屬スル柔道指針、劍
道指針及弓道指針作成ノ主査委員長トシテ精勵ス、又昭和四年十二
月體育運動審議會委員トナリ學校體育運動ノ振興ニ努メ殊ニ從來中
等學校ニ於ケル課外運動タリシ柔道ヲ劍道ト共ニ正課タラシムベキ
ヲ主唱シ遂ニ昭和十一年學校體育運動ノ根幹トモ謂フベキ學校体操
教授要目ノ改正ニ於テ之ヲ正課ニ加フルコトトナレリ、之等同人ノ
學校體育運動ニ關スル功績誠ニ大ナルヲ認ム

以上列擧ノ外同人ハ柔道精神タル精力善用、自他共榮ノ二原則ノ下
ニ社會生活ノ存續發展ニ貢獻センガ爲大正十一年講道館文化會ヲ設
ケ機關雜誌「作興」其ノ他ヲ以テ國民精神ノ作興ニ努メ又今次事變
ノ重大ナルニ鑑ミ昭和十三年報國更生團ヲ創立シ凡ユル方面ニ對シ
國民生活ノ更新作興ヲ期シ報國ノ誠ヲ致シタルガ如キ國民體育ノ振

興並ニ國民精神ノ作興ニ寄與セルノ功勳カラズ
同人ハ前記カイロニ於ケル國際オリンピツク委員總會ノ開催ニ當リ
七十九歳ノ老軀ヲ提ゲテ之ニ臨ミ遺憾ナキ活動ヲ敢テシ克ク所期ノ
目的ヲ貫徹シ歸途米國ヲ經由シ將ニ親シク國民待望ノ報告ヲ故國ニ
傳ヘントシテ航海中遽ニ病ヲ得遂ニ本月四日船中ニ薨去ス訃報至リ
テ國民齊シク痛惜セルモ同人ニ於テハ其ノ終生ヲ捧ゲシ体育運動界
ニ潔ク殉ジタルモノニシテ正ニ勇將ノ戰場ニ散華セルニモ譬フベク
其ノ偉烈永遠ニ傳フベキモノタルヲ認ム

文
部
省

嘉納塾及講道館塾ノ説明

嘉納治五郎ハ明治十五年華族會館設立名義ノ時代ヨリ學習院ニ職ヲ奉ジ同十七年學習院ノ官立ト定メラレタル後モ引續キ之ニ勤務シ最後同院教頭ノ要位ニ就キタル者ナルガ同人ハ此ノ間終始生徒ノ訓育ニ携ハリ就任當初ヨリ同院ニ寄宿舎ノ設ケナキヲ遺憾トナシ直ニ自ラ私費ヲ以テ嘉納塾ヲ創立シ訓育ノ徹底ヲ企圖シタリ嘉納塾ハ學習院ニ寄宿舎ノ設置セラレシ大正十年頃迄存續シ其ノ收容塾^生ノ約八割ハ學習院生徒ニシテ柔道ヲ教授スルト共ニスバルタ式トモ謂フベキ極メテ嚴格ナル硬教育ヲ施シ故公爵徳川慶久、伯爵勝芳孝、子爵毛利元雄、同加藤泰通、杉村陽太郎其他幾多ノ名門名家ノ子弟ヲ教養シ感化薰染ノ功大ナルモノアリ、又同ジク明治十五年講道館道場ニ

文 部 省

學ブ者ノ爲ニ別ニ同館ニ講道館塾ヲ設ケ塾生ニ對シテ親シク精神的訓練ヲ施シ其ノ結果柔道向上ノ由因ヲ爲セルトコロ甚ダ多ク之亦前記嘉納塾ト等シク大正十年頃迄繼續シ翌十一年講道館文化會創設セラレ講道館ノ精神方面ノ主義主張ハ其ノ活動ニ依ルコトトナリテ同塾ハ廢止ス

昭和十三年五月七日

貴族院書記官長 瀬古保次



内閣總理大臣 公爵近衛文麿 殿

上 申

貴族院議員正三位勳一等 嘉納治五郎

右者國際オリンピック組織委員會ニ參列ノ歸途本月四日船中ニ於テ薨去致候ニ付テハ此際特ニ位勳陞叙ノ恩典ニ浴セシメラルル様

貴族院

御詮議相成度別紙功績書及履歷書相添此段上申候也

追而文部省ヨリモ別ニ上申有之筈ニ付爲念申添候

功 績 書

貴族院議員正三位勳一等 嘉 納 治五郎

右者本月四日薨去ノ處同議員ハ別紙履歴書記載ノ通明治十四年東京大學ヲ卒業シ同十五年學習院教師トナリテヨリ駒場農學校教授、學習院教授同教頭、文部省參事官、第五高等中學校長、第一高等中學校長、高等師範學校長、文部省普通學務局長等ニ歷任シ、又高等教育會議員、教科用圖書調查委員會委員、教育調查會會員、臨時教育會議委員、臨時教育委員會委員、教員檢定委員會臨時委員(屢々)、學校衛生調查會臨時委員、臨時ローマ字調查會委員、體育運動審議會委員等ヲ仰付ケラレ又講道館館長、講道館文化會

貴 族 院

會長、國際オリンピック委員、大日本體育協會會長等ニ推舉セラレ實際教育者トシテ、又教育行政ノ權威者トシテ、又體育ノ先覺者トシテ我が國教育竝體育ノ普及發達ノ爲ニ貢獻セル所寔ニ多大ナルモノアリタリ。

大正十一年二月貴族院議員ニ勅任セラレテヨリ今日ニ至ルマデ十七年ノ永キニ亘リ各議會ニ於テ豫算、決算、請願、懲罰等ノ常任委員竝大學特別會計法中改正法律案、家祿引直處分法案、健康保險法中改正法律案外一件、府縣制中改正法律案外十一件、大正十三年法律第十號中改正法律案、公益質屋法案、恩給法中改正法律案外二件、健康保險特別會計法中改正法律案外二件、市町村義務

教育費國庫負擔法中改正法律案、入營者職業保障法案外一件、兒童虐待防止法案、產繭處理統制法案外二件、大正九年法律第五十六號中改正法律案等重要ナル法律案ノ特別委員トナリ多年ノ經驗ト豊富ナル蘊蓄トヲ傾ケテ常ニ慎重審議以テ大政翼贊ノ誠ヲ竭セル等其ノ功績寔ニ顯著ナルヲ確認ス

貴族院

兵庫縣平民

族府
籍縣

生年
日年
舊姓名
萬延元年一〇月二八日

嘉納治五郎

(一號)

同二三	一、一六		布紀念章ヲ授與ス	歐洲ヨリ歸朝	賞勳局
同	一、二九		明治廿二年八月三日勅令第三百三 號ノ旨ニ依リ大日本帝國憲法發		
同	八、一九	同	免兼教頭	歐洲へ被差遣	同
同	同	同	同	宮内省御用掛兼勤被仰付	宮内省
同二〇	五、一七		臨時編纂事務ヲ囑託ス		文部省
同二二	八、五	同			同
同	一、二七		敘從六位		同
同	同		奏任三等		同
同一九	六、一五		敘正七位		宮内省
同	同		任學習院教授兼教頭		同
同	四、三〇		任學習院幹事兼教授		太政官
同	三、九			任學習院教授補	同
同	七、三一			學習院教授補被仰付	宮内省
履 歷 書		文 部 省			
同	同		解候事	取扱候事	宮内省
同	七、三一		今般學習院官立ト被定候ニ付職務相		華族會館
同	三、六		理財務教授委囑	金百五拾圓交付候事	學 駒場農 華族會館 校
同	一、一〇		學習院理財學教師ノ依頼ヲ受ク		學習院
同	同		道義學及審美學科卒業		
同	同		文學士ノ學位ヲ受ク		
同	同		文學部中道義學及審美學ノ撰科ニ入 ル		
同	同		文學部中政治學及理財學科卒業		
同	同		東京大學文學部ニ入ル		
同	同				

同	一、二、三、四			非職被仰付	内閣
同	九三〇		師範學校尋常中學校高等女學校 教員檢定委員ヲ解ク	文部省	
同	六二〇	同	免本官專任文部省普通學務局長	内閣	
同	三三〇	同	敍正五位	文部省	
同	六、九	同	小學校教員功績者調査委員長ヲ命ス	文部省	
同	一、二、四		圖書編纂審査委員長ヲ命ス	内閣	
同	三、三〇	同	敍高等官二等	文部省	
同	一、二、八	同	尋常師範學校尋常中學校高等女 學校教員檢定委員ヲ命ス	文部省	
同	三〇、一、一、一、九	同	免ス	内閣	
履歴書				文部省	
				内閣	
同	九一四	同	同	同	
同	八、二、八	同	同	同	
同	八、二〇	同	同	同	
同	四二二	同	同	同	
同	四一六	同	同	同	
同	七三一	同	同	同	
同	一、二、二、五	同	同	同	
同	三、一、一	同	同	同	

(二號)

履 歴 書		文 部 省	
同三二一〇、二八	敍勳五等授瑞寶章	賞勳局	(二號)
同三二一〇、二二	清國皇帝陛下ヨリ贈與シタル第二等 第三雙龍寶星ヲ受領シ及ヒ佩用スル ヲ允許ス	賞勳局	
同三四 五、九	九任高等師範學校長 敍高等官二等	内閣	
同 六二二	賜一級俸	文部省	
同三五 四、一	東京高等師範學校ト改稱	修身教科書調査委員ヲ命ス	同
同三五 四、一		國語調査委員會委員被仰付	内閣
同 六二〇		御用有之清國へ被差遣	同
同 一〇、一六		清國ヨリ歸京	同
同 一、二、二七	敍勳四等授瑞寶章	修身教科書調査委員ヲ免ス	賞勳局
同三七 六三〇		高等教育會議々員被仰付	文部省
同三八 三、一四			内閣
同 五、一七		御用有之清國へ被差遣	内閣
同 六二二		小學校教育效績審査委員ヲ命ス	文部省
同 一〇、一〇	敍從四位		官内省
同三九一、二、二七	敍勳三等授瑞寶章	高等教育會議々員被仰付	賞勳局
同四一 九、二九		高等教育會議々員被仰付	内閣
同四三 四、五		教員檢定委員會委員被仰付	同
同 一〇、六		教科用圖書調査委員會委員被仰付	同
同 一〇、三一	敍正四位		官内省
同四四一〇、二六	敍勳二等授瑞寶章		賞勳局
同四五 六、七		歐米各國へ出張被仰付	内閣
同 三、六		歸朝	内閣
同 三、七、四		教育調査會會員被仰付	内閣
同 八、二一	瑞典國皇帝陛下ヨリ贈與シタル第五 回「オリンピック」競技欽定記念章 ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル		賞勳局

同 八	同 一 三、 二、 四	同 八、 一、 二	同 二、 一、 八	同 二、 一、 八	同 三、 一、 一	同 三、 一、 六	同 一、 一、 三、 六	同 八、 一、 四	同 四、 四、 五	同 四、 四、 五	同 五、 四、 一、 五	同 四、 九、 五	同 三、 一、 一、 〇	同 三、 三、 一、 一	同 三、 三、 一	同 一、 一、 〇	同 八、 一、 八	同 三、 三、 〇	同 三、 三、 〇	同 九、 一、 〇	同 三、 二、 四	同 一、 五、 三、 二、 四	同 一、 五、 三、 二、 四	同 八、 二、 五				
													昭和三年勅令第百八十八號ノ旨 ニ依リ大禮記念章ヲ授與セララル															
													金杯一箇ヲ賜フ															
													教育部															
													内閣															
													同															
													文部省															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															
													同															
													内閣															

同	八	三一六			第二部部屬ヲ命ス	文部省
同	九	八一六			教員檢定委員會臨時委員被免	内閣
同	九	三三三			教員檢定委員會臨時委員被仰付	同
同		三三三			第二部部屬ヲ命ス	文部省
同		九七			教員檢定委員會臨時委員被免	内閣
同	〇	三二二			教員檢定委員會臨時委員被仰付	同
同		三二二			第二部部屬ヲ命ス	文部省
同		八三一			教員檢定委員會臨時委員被免	内閣
同	一	三一九			教員檢定委員會臨時委員被仰付	同
同		三一九			第二部部屬ヲ命ス	文部省
同		五二七			第十二回國際オリムピック大會招致ニ關スル事務囑託ヲ解ク	文部省
同		六四			致ニ關スル事務ヲ囑託ス	文部省
同		六三〇		勅令第百四十四號ニ依リ臨時ロ十マ字調査會官制ハ之ヲ廢止ス	歐米各國へ出張ヲ命ス	同
同	一	一一九			教員檢定委員會臨時委員被免	内閣
同	二	三一			第十二回國際オリムピック大會	
同		四一〇			招致ニ關スル事務囑託ヲ解ク	文部省
同		四一〇			教員檢定委員會臨時委員被仰付	内閣
同		一〇八			第二部部屬ヲ命ス	文部省
同		三二四			教員檢定委員會臨時委員被免	内閣
同		三二四			教員檢定委員會臨時委員被仰付	同
同		三二四			第二部部屬ヲ命ス	文部省
同		五四		薨去		

本籍 兵庫縣平民
 現住所 東京市小石川區大塚坂下町百十四番地
 年号 明治 月 日 行 號 別 庫 名
 萬延元年十月二十八日 氏 名 嘉納 治五郎

一四 七、 文學部中政治學及理財學卒業 文學士ノ學位ヲ授ク 東京大學
 七、 文學部中道義學及審美學ノ選科ニ入ル 東京大學
 一五 七、 道義學及審美學科卒業 東京大學
 八、二九 學習院教師ノ任ヲ囑ス 華族會館
 一七 三、 六 理財學教授委囑 駒場農學校
 七、三一 今般學習院官立ト被定候ニ付職務相解候事 華族會館
 " 宮内省御用掛被仰付 奏任官ニ准シ取扱候事 宮内省
 " 學習院教授補被仰付 " " 宮内省
 " 學習院教授補 " " " 太政官
 一八 三、 九 任學習院幹事兼教授 太政官
 四、三〇 任學習院幹事兼教授 太政官

明治 六、 五 敘正七位 宮内省
 一八 六、 一九 任學習院教授兼教頭 宮内省
 一九 六、 一九 敘奏任官三等 宮内省
 " 敘從六位 宮内省
 一一、二七 臨時編纂事務ヲ囑託ス 文部省
 二〇 五、一七 宮内省御用掛兼勤被仰付 宮内省
 二二 八、 五 歐洲へ被差遣 " 宮内省
 " 免兼教頭 " " 賞勳局
 八、一五 賜三級俸 " " 賞勳局
 一一、四 大日本帝國憲法發布記念章授與 賞勳局
 一一、二九 歐洲ヨリ歸朝 " " 賞勳局
 二四 一、一六 宮内省御用掛兼勤被免 宮内省
 四、三〇 任文部省參事官 宮内省
 " 奏任官三等 内閣
 " 任第五高等中學校長兼文部省參事官 内閣
 八、一三 任第五高等中學校長兼文部省參事官 内閣

貴族院

明治	六、五	敘正七位	宮内省
一八	六、一九	任學習院教授兼教頭	宮内省
一九	六、一九	敘奏任官三等	宮内省
"	"	敘從六位	宮内省
二〇	五、一七	臨時編纂事務ヲ囑託ス	文部省
二二	八、五	宮内省御用掛兼勤被仰付	宮内省
"	"	歐洲へ被差遣	"
"	八、一五	免兼教頭	"
"	一一、四	賜三級俸	"
"	一一、二九	大日本帝國憲法發布記念章授與	賞勳局
二四	一、一六	歐洲ヨリ歸朝	"
"	四、三〇	宮内省御用掛兼勤被免	宮内省
"	"	任文部省參事官	宮内省
"	"	奏任官三等	内閣
"	"	任第五高等中學校長兼文部省參事官	内閣
八、一三	"	任第五高等中學校長兼文部省參事官	内閣

二六	一一、一八 一、二五	敘委任官二等 免兼官 任文部省參事官	敘高等官四等	內閣
	"	大臣官房圖書課長兼勤ヲ命ス		文部省
	六、一九	任第一高等中學校長兼文部省參事官		內閣
		敘高等官四等		內閣
	九、一三	高等師範學校長心得兼勤ヲ命ス		文部省
	九、二〇	任高等師範學校長 兼文部省參事官如故		內閣
		敘高等官四等		內閣
二九	九、一〇	圖書編纂審查委員ヲ命ス		文部省
三〇	八、二〇	非職ヲ命ス		文部省
	"	圖書編纂審查委員ヲ免ス		文部省
	九、一四	依願免本官並兼官		內閣
	一一、一九	任高等師範學校長 敘高等官三等		"
三一	一、一八	兼任文部省普通學務局長 敘高等官二等		"
貴族院				
明治三一	六、二〇 一、二四	免本官專任文部省普通學務局長 敘高等官二等 非職被仰付		內閣
三二	一〇、一二	清國皇帝陛下ヨリ贈與シタル第二等第三雙龍寶星ヲ 受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル		賞勳局
三四	五、九	任高等師範學校長 敘高等官二等 賜一級俸		內閣
三五	六、三〇 一〇、一六	御用有之清國へ被差遣 清國ヨリ歸朝		內閣
三八	三、一四	高等教育會議員被仰付		內閣
	五、一七	御用有之清國へ被差遣		"
	六、二二	小學校教育効績審査委員ヲ命ス		文部省
	九、二九	高等教育會議々員被仰付		內閣
	一〇、六	教科用圖書調査委員會委員被仰付		"
四四	一〇、二六	敘勳二等授瑞寶章		賞勳局
四五	六、七	歐米各國へ出張被仰付		內閣

大正	三、六	歸朝		
二	七、四	教育調査會々員被仰付		内閣
四	八、二一	瑞典國皇帝ヨリ贈與シタル第五回オリンピック競技 欽定記念章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル		賞勳局
	一一、九	支那共和國政府ヨリ贈與シタル二等嘉禾章ヲ受領シ 及ヒ佩用スルヲ允許セラル		"
五	七、六	陸軍高等官一等		内閣
	七、三一	叙從三位		宮内省
六	九、二一	臨時教育會議委員被仰付		内閣
八	七、二三	臨時教育委員會委員被仰付		賞勳局
	五、二四	授旭日重光章		"
九	一、一六	叙勳一等授瑞寶章		内閣
	"	依願免本官		宮内省
	二、一〇	叙正三位		文部省
	五、二五	歐洲ニ於ケル社會教育取調ヲ囑託ス		
大正	五、二五	歐洲ニ於ケル教育事業ノ取調ヲ囑託ス		東京高等師範學校
九	六、八	歐米諸國視察ノ爲東京ヲ發ス		
一〇	二、一一	米國ヨリ歸朝		
	四、二二	東京高等師範學校講師ヲ囑託ス		東京高等師範學校
一一	二、二	貴族院令第一條第四號ニ依リ貴族院議員ニ任ス		
	四、二六	教員檢定委員會臨時委員被仰付		内閣
一二	三、一二	學校衛生調査會臨時委員被仰付		"
	四、三〇	教員檢定委員會臨時委員被仰付		"
一三	三、一	東京高等師範學校名譽教授ノ名稱ヲ授ク		内閣
一四	四、二七	教員檢定委員會臨時委員被仰付		"
一五	八、一九	教員檢定委員會臨時委員被免		"
昭和	一一、一〇	金杯一箇ヲ賜フ		賞勳局
三	"	昭和三年勅令第百八十八號ノ旨ニヨリ大禮記念章ヲ 授與セラル		"
五	八、一三	教員檢定委員會臨時委員被免		内閣

貴族院

一一、二六	臨時ローマ字調査會委員被仰付	昭和十一年六月卅日 (廢止)	賞勳局
六五、一	昭和五年勅令第四百十八號ノ旨ニ依リ帝都復興記念章ヲ授與セラル		賞勳局
七二、一八	教員檢定委員會臨時委員被仰付		内閣
一〇、一	昭和七年勅令第四百十五號ノ旨ニ依リ朝鮮昭和五年國勢調査記念章ヲ授與セラル		賞勳局
一一、二四	體育運動審議會委員被仰付		内閣
九三、一	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國功勞章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル		賞勳局
三、三	教員檢定委員會臨時委員被仰付		内閣
"	第二部部屬ヲ命ス		文部省
四、二九	昭和六年乃至九年事變ニ於ケル功ニ依リ金杯一箇ヲ賜フ		賞勳局
九、七	教員檢定委員會臨時委員被免		内閣
一〇三、二二	教員檢定委員會臨時委員被仰付		"
昭和一〇	第二部部屬ヲ命ス		文部省
三、二二	第二部部屬ヲ命ス		文部省
八、三一	教員檢定委員會臨時委員被免		内閣
九、二一	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル滿洲帝國皇帝訪日記念章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル		賞勳局
一一三、一九	教員檢定委員會臨時委員被仰付		内閣
"	第二部部屬ヲ命ス		文部省
一一、九	教員檢定委員會臨時委員被免		内閣
一二四、一〇	教員檢定委員會臨時委員被仰付		"
"	第二部部屬ヲ命ス		文部省
一〇、八	教員檢定委員會臨時委員被免		内閣
一三二、二四	教員檢定委員會臨時委員被仰付		"
"	第二部部屬ヲ命ス		文部省
五、四	薨去		文部省

貴族院